

再評価結果（平成21年度継続箇所）

担当課：道路局 有料道路課

担当課長名：上野 進一郎

事業名	東九州自動車道 門川～西都		事業区分	高速自動車国道	事業主体	西日本高速道路(株)
起終点	自)宮崎県東臼杵郡門川町大字加草 至)宮崎県西都市大字岡富			延長	5.9 km	
事業概要						
東九州自動車道は、九州縦貫道、九州横断道と一体となって高速道路ネットワークを形成し、九州地方の一体的な産業、経済、文化の交流発展に資する路線である。						
H9年度事業化		H8年度 都市計画決定		H11年度用地着手		H12年度工事着手
全体事業費	1,914億円			事業進捗率	34%	供用済延長 - km
計画交通量	約5,300台/日 ~ 約9,600台/日					
費用対効果 分析結果 (有料)	B/C (事業全体) 2.1 (残事業) 3.2	総費用 (残事業)/(事業全体) 1,354/2,043億円 事業費：1,053/1,741億円 維持管理費：302/302億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 4,360/4,360億円 走行時間短縮便益：3,633/3,633億円 走行費用減少便益：544/544億円 交通事故減少便益：183/183億円	基準年 平成20年		
感度分析の結果 残事業について感度分析を実施						
交通量変動	: B/C = 3.5 (交通量 +10%)		B/C = 2.9 (交通量 -10%)			
事業費変動	: B/C = 3.5 (事業費 -10%)		B/C = 3.0 (事業費 +10%)			
事業期間変動	: B/C = 3.4 (事業期間 -1年)		B/C = 3.1 (事業期間 +1年)			
事業の効果等						
<ul style="list-style-type: none"> 円滑なモビリティの確保(第一種空港、第二種空港、第三種空港もしくは共用飛行場へのアクセス向上が見込まれる) 国土・地域ネットワークの構築(当該路線が新たに拠点都市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構成する) 災害への備え(並行する高速ネットワークの代替路線として機能する) 他17項目に該当 						
関係する地方公共団体等の意見						
当該区間の整備により、これまで整備を行ってきた国際コンテナ航路を有する細島港などの公共施設のさらなる有効利用が図られるとともに、当該地域内の交流・連携が活発化し、様々な分野での整備効果が期待できる路線であることから、宮崎県知事をはじめ、各期成会、同盟会より整備促進の要望を受けている。						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等						
平成17年センサスデータをベースにした新しい将来交通需要見直し、費用便益分析マニュアルの改定がなされた。						
事業の進捗状況、残事業の内容等						
門川～日向、高鍋～西都：平成22年度の開通に向けて、工事全面展開中である。						
都濃～高鍋、日向～都濃：用地取得を進めており、本線工事に着手している。						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等						
門川～日向、高鍋～西都：供用予定は平成22年度であり、現在、用地取得がほぼ完了し、工事全面展開中である。						
都濃～高鍋：供用予定は平成24年度であり、現在、用地取得がほぼ完了し、本線工事に着手している。						
日向～都濃：供用予定は平成26年度であり、現在、用地取得を進めており、本線工事に着手している。						
施設の構造や工法の変更等						
新技術・新工法や現地の状況変化も確認しながら積極的にコスト縮減を図っていく。						
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わっておらず、事業実施の目途が立っている。					
事業概要図						

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。